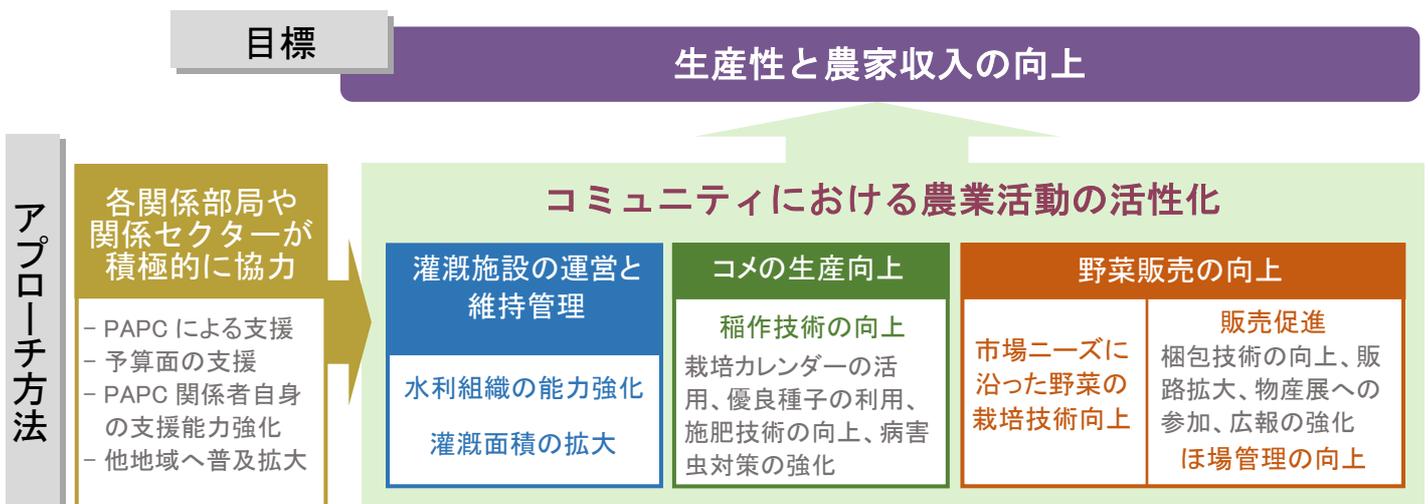


参加型農業(PAD)とは?

今号では、Savan PADの基礎となっている「参加型農業(PAD = Participatory Agriculture Development)」について、その基本的考えや焦点を当てているポイントについて解説します。

PADのモデル図



原則

- 参加型 1** - 農家自らが営農活動の意思決定に参加すること。
- 参加型 2** - 行政(県・郡)は、農家だけで解決が難しい課題に対し、予算面・技術面で支援すること。
- 参加型 3** - 民間セクターや金融機関は、農家の活動に協力するために参加すること。

●PADの基本的考え

- 参加型農業(PAD)は、農家と行政(及びその他セクター)の協働による農業開発モデル。
- 生産性と農家収入の向上のため、**灌漑**、**稲作**、**マーケティング** / **園芸作物**を、**3本の柱**として取り組む。
- 県内の各関係部局の他、金融機関や民間セクターが協力して、この3本の柱の取り組みを支援していく。
- 活動を実施する際は、3つの「**参加型**」の原則に留意する。
- 地域農業を活性化するためのこうした包括的なアプローチがPAD。

サバナケット(Savannakhet) 県における
PADの実践者
 II
Savan PAD

● 3本の柱(主眼となる3つの分野)

灌漑分野

灌漑施設の運営・維持管理向上のため、2つの観点から活動を展開。

- 1) 水利組織の強化
- 2) 灌漑面積の拡大



稲作分野

収量増加を図るため、以下を中心に活動を実施。

- 1) 栽培カレンダーの活用
- 2) 優良種子の利用と種子選別技術の奨励
- 3) 施肥技術の向上
- 4) 病虫害対策の向上

Savan PAD では、種子・肥料を先に貸与し、収穫後に代金を回収するプログラムを実施中。その中でこれらのポイントを網羅しています。



マーケティング／園芸栽培分野

野菜販売の拡大のため、以下を中心に活動を展開。

- 1) 市場ニーズに基づく園芸作物栽培技術の向上
- 2) 販売促進の強化
- 3) ほ場管理の向上



Q PAD は他分野にも
応用できないの？

A

これまで説明してきた PAD の基本的な考え方に沿って
いけば、他の分野にも適用可能です。家畜、養魚、森林
やその他の農業活動にも応用できるでしょう。

● 行政や他セクターによる支援の強化

各関係部局・関係セクターによる協力

- 農業活動を支援し、継続・拡大させるために、関連部局が連携・協力をする。
- 主に活動方針の検討、予算支援、他地区への拡大などを担う。
- Savan PAD では、サバナケット県下の4局で構成する参加型農業推進委員会(PAPC)という組織を設立。
- 次段階として、他セクター(金融機関、NGO、民間企業など)の参加・協力が期待が持たれる。

参加型農業推進委員会 (PAPC)

サバナケット県下の4局:

- 県農林局
- 県計画投資局
- 県商工局
- 県財務局



- 金融機関
- NGO
- 民間企業 など